

26PA-pm098S

Candida albicans および *Candida glabrata* の接着性

○石川 萌子¹, 杉田 大輔¹, 市川 智恵¹, 池田 玲子¹ (¹明治薬大・感染制御)

【目的】*Candida* 属菌種は消化管や口腔に常在する酵母であるが、真菌感染症の起因菌としても重要である。主な原因菌種は *C. albicans* であるが、近年では *C. albicans* 以外の菌種による感染症も増加しており、特に *C. glabrata* の増加率が高いと報告されている。そこで本研究では、*C. albicans* と *C. glabrata* に着目し、培養プレートおよびヒト上皮系細胞への接着能の違いを解析した。

【方法】*Candida* 属菌種を培養プレートへ接種し、1日培養した。接着した菌体をクリスタルバイオレットで染色後にエタノールで溶出して吸光度を測定し、接着量を算出した。上皮系細胞への接着には、ヒトケラチノサイト細胞株 HaCaT およびヒト肺胞上皮細胞株 A549 を用いた。HaCaT および A549 を培養プレートに接種し、37℃、5%CO₂ 存在下で2時間接着させたのち、各菌を添加してさらに2時間培養した。非接着細胞を洗浄し、ギムザ染色後、顕微鏡で接着性を判定した。

【結果および考察】 *C. albicans* 6株と *C. glabrata* 4株について接着性を解析した結果、*C. albicans* は培養プレートと培養細胞のいずれにも接着するが、*C. glabrata* は培養細胞により選択的に接着する像が認められた。また、特に HaCaT で顕著な接着傾向を示したことから、両菌種はカテーテルなどの医療素材以外に、組織や細胞の種類によっても接着性が異なる可能性が示唆された。